

さくの風

佐久市議会だより

(2025年11月発行)

佐久市議会「さくの風」

代表 塩川浩志

佐久市中込3056(佐久市議会内)

0267-62-3495

4月の選挙後、3期目に入った塩川浩志、高柳博行、土屋啓子の3人で再び会派を結成しました。これまで4年間、「とことん議論」「市民目線で市政をチェック」を合言葉に、是々非々の姿勢で市政と向き合ってきました。これからもブレることなく、議会の重責を自覚しながら活動していきますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

11年ぶり原案否決～佐久大への補助金を巡って

9月議会では、「佐久大学への補助金」をめぐる補正予算案について賛否が分かれました。

私たちは原案に反対し、他の会派とともに修正案を発議しました。結果は原案否決、修正案が可決となりました。原案否決は2014年以来で、私たちが議員になって8年以上、全ての議案を原案通り可決してきた佐久市議会にとっては、画期的な一日となりました。その経緯や私たちの反対理由について説明いたします。

市の提案内容…▼佐久大学の入学者の定員割れが続く、経営状態が悪化したため、今年4月から国の「就学支援制度」の対象外となり、学生への授業料減免などのための交付金が国から出なくなった。今年度分は大学が独自で交付しているが、経営上、持続は困難。減免が行えなくなると入学希望者が減る可能性がある▼そこで今年度の減免分約8350万円を市が補助。さらに来年度以降4年間分(計約3億6000万円)の債務負担行為(＝予算を組む約束)を提案。

私たちの反対理由…▼税金を投入し続けることができない以上、「大学がいかに早期に経営改善して再び国の交付金の対象となるか」に尽きる問題。国の交付金の再認定は最短3年後であり、債務負担行為もそれまでの2年間として本気の経営改善を促すべき▼市はこれまでも新学部設立時に3億3000万円、その後も地方創生につながる大学の取り組みに毎年3500万円(総額1億円以上)を支出してきた。3500万円の根拠である「新学部設立で学生が280人増えることで国から来る地方交付税が3500万円増える」という条件も定員割れで半分も満たせていない状況で、私立大学への税金投入は慎重に判断すべき。▼昨年まで、交付金を受けながら学生確保ができてこなかった事実も重い。

修正した内容…今年度分の約8350万円の支出は認める。来年度以降の債務負担行為については、4年間から2年間に短縮し、金額を1億7700万円に減額。

結果…修正案への賛成16人、原案への賛成6人で、原案否決、修正案が可決となりました。

その後…市は「議会の判断を重く受け止める」とし、佐久大学に対し、議会で認められた今年度分の支出の条件として「地元の学校法人との合併協議を行うこと」を示しました。現在、学校法人「信学会」との協議が行われています。

私たちの考え方…少子化を背景とする全国的な状況を見ても、現在の苦境は佐久大学だけの責任とは言い切れませんし、「医療の町」をかかげる佐久市にとって佐久大学が担っている医療・介護人材の確保が極めて重要であることは間違いありません。また、佐久市のような地方都市にとって、大学の存在が地域に若者を呼び込むために不可欠な存在であることも十二分に理解しています。だからこそ、大学側には経営改善に真剣に取り組んでほしいというのが、修正案に込めた願いです。今回の修正案は大学を見放すものではなく、債務負担行為の期間が終わった後のことについては、その時点での経営改善の状況などを検証したうえで、あらためて判断する余地を残すものです。

こんな質問をしました ～ 3人の一般質問から

塩川浩志（代表） 社会委員会副委員長、議会改革特別委員会、



浅簾水道企業団議会、佐久市北佐久郡環境施設組合議会

▼自殺対策 身近な相談者である「ゲートキーパー」を増やす取り組みの強化を。子どもの保護者への研修を ▼学校の主権者教育 「自分たちの学校を自分たちで作る」という日々の主体的な経験を重ねることで主権者意識を育む取り組みを ▼「家織り(うちおり)」 佐久地域の貴重な機織文化である家織りを知る人が高齢で減っていく中、織物の収集や聞き取り調査等を急ぐ必要がある。家織りが国の文化財に指定された東京都清瀬市のような行政支援を ▼不登校 市内の不登校の子の8～9割が外部施設を利用せず自宅のみで過ごしており、受け皿となる「居場所」の圧倒的な不足は明らか。不登校の子は市町村をまたいで施設を利用しているので、市外のフリースクールも含めた利用料などの支援を。

高柳博行（副代表） 総務文教委員会、予算決算委員長、広報広聴特別委員会、川西保健衛生施設組合議会



▼老朽化により閉鎖が決定した「あさしな温泉穂の香乃湯」の今後の民間活用について ▼持続可能な佐久市の観光を目指すために不可欠な観光協会の法人化や観光人材の育成、広域連携のあり方について ▼小中学校の防犯カメラの設置状況及び人けのない通学路への防犯カメラの設置要望、浅間山噴火による広域避難計画など防犯・防災の強化について ▼役所で働く職員のモチベーションを高めるためのハラスメントの実態把握と防止策について ▼佐久市の農業振興について

一般質問だけで現状をすぐに改善することは難しいですが、質問を通して行政を常に牽制することで、中長期ビジョンで市民生活の向上を図ることを念頭に置いて取り組んでいます。

土屋啓子（ひろこ）（会計） 経済建設委員会、総合交通対策特別委員会、



佐久水道企業団議会施設委員長、佐久環境衛生組合副議長

▼子ども・子育て支援拠点施設 遅れている事業の進捗は ▼佐久新校創設 野沢北高の校地利用が進められているが、特に周辺道路整備で大きな影響を受ける地元への丁寧な情報提供を ▼デマンドワゴンさくっと 予約電話がつながりにくとの声があり、利用者に理解を得る配慮が必要 ▼带状疱疹ワクチン 65歳以上が定期接種対象だが、50歳代から急激に発症率が上がっており、50歳以上の任意接種に補助できないか ▼ふるさと納税 自治体間競争の過熱、産地偽装などが問題となっている。米価高騰で返礼品として需要が高まっているが、在庫管理や調達価格の設定、収支バランスの状況は ▼健康長寿のまちづくり 野沢多目的広場やさくらさく小径に多世代が利用できる健康器具設置を。